



## 一年の重み

毎年この時期が来ると、「1年経つのはなんて早いのだろう」と思わずにはいられません。自分が子供の頃は、小学校の6年間で長く過ごした感じがしていました。おそらく大人になった人は、多くの方が同じような感覚をお持ちではないかと思います。しかも、歳を取るごとに1年経つ速さも増しているように感じられるのではないのでしょうか。それはおそらく、大人の1年は30歳なら人生の1/30（三十分の一）、50歳なら1/50というように、分母がどんどん大きくなるため、人生における1年の割合が小さくなるからではないかと自分では思っています。

そう考えると、小学生の1年というのは低学年ほど人生における割合が高くなるわけで、6年生であっても1/12ですから、今の私の歳からすると人生の約5年分近くがこの1年間に集約されているということになるのです。

私たち教員にとっては毎年当たり前のように同じ1年ですが、児童にとっては、その学年ごとに、とても重みのある大切な1年なのです。

だからこそ、今年度もあと4週ほど、6年生は3週ほどとなりましたが、最後の一日まで教員も児童もできることをやり切って新年度を迎えるようにしたいと思います。



## 6年生からの贈り物

卒業を目の前に、6年生が家庭科の時間に消毒液用のコースターを作って、各学級や特別教室用にプレゼントしてくれました。

校長室には水色のチューリップ柄のコースターをメッセージ付きで持ってきてくれました。丁寧に縫ってあり、無機質な消毒液のボトルもこの上に置くと温かみがあります。思いがけないサプライズプレゼントでした。6年生ありがとう！

